



「声」の欄・投稿規定

★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。

★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。

★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。

★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-6838-9222）とE-mail（アドレス：hifubyoh-shinryoh@kk-kyowa.co.jp）にても受け付けております。

★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

後発薬は使わない

厚労省は後発薬(generic drug：欧米では一般名で処方)は先発薬(brand drug)と薬効が同等であると広報し、後発薬を積極的に処方するように推奨している。さらに2013年には商品名でなく一般名で院外処方箋を出す調剤薬局は調剤技術料が加算できるように改定された。製薬会社も有名芸能人を使って盛んにテレビコマーシャルを流していることも相まって、その利用率は5割を超えたと推計されている。しかし現実には、長年内科を開業している石井光氏の直言の新書『医師の嘘 医者は自分の都合でウソをつく』(幻冬舎、2015)によると欧米ではgeneric drugはbrand drugより効力が落ちることは常識であり、筆者も臨床経験から後発薬は使わないと明言している。

札幌医科大学 宇原久教授の名著『どう診る？ どう治す？ 皮膚診療はじめの一步～すぐに使える皮膚診療のコツとスキル』(羊土社、2013)の177頁には、先発外用薬には入っていないが、後発薬にはクロタミトン(オイラックスの主成分)が入っているものがステロイド外用薬や水虫のOTC薬にはきわめて多いと警告している。

昨年(2017年)の『週刊文春』新年特大号の「本当に危険なジェネリック医薬品」は、多角的に検証された一読に値する告発レポートである。一例をあげれば後発薬の原料の5割が韓国・中国・インドなどの輸入原料であると知り、ぞーっとした。老生は、おのれに使わないものは患者-串が心に刺った人-には処方しない。

井上勝平

(飯田市・井上医院)

「皮膚病診療」既刊号のご案内

Vol.38, No.8 遺伝子検索を行った皮膚病
No.9 光学療法
No.10 類天疱瘡とその周辺
No.11 天疱瘡とその周辺
No.12 嚢腫
増刊号 薬疹症例集
Vol.39, No.1 好発部位を外れた皮膚病
No.2 外国語で表現されやすい皮膚病
No.3 鼻の皮膚病
No.4 痛みを伴う皮膚病

No.5 発熱を伴う皮膚病
No.6 代謝性疾患と皮膚病
No.7 接触皮膚炎—2017
No.8 バリア障害
No.9 顔の腫瘍(悪性腫瘍)
No.10 口唇・口囲の皮膚病(炎症性)
No.11 顔の結節
No.12 乾癬—2017
増刊号 皮膚科救急診療マニュアル
Vol.40, No.1 心に残る症例—40周年記念特別号—